

2020オリ・パラ東京大会を契機とした GAPの推進と県産農畜水産物のプロモーション

平成30年9月18日

持続可能性に配慮した日本の食の魅力発信のための研修会

岐阜県農政部

①岐阜県「東京オリ・パラ」県産農畜水産物利用促進協議会

<目的>

【短期】オリ・パラ大会への食材供給

【長期】持続可能な農業生産を可能とするためのGAP認証の取得推進
首都圏への販路拡大・岐阜県産農畜水産物のプロモーション

【協議会構成団体】

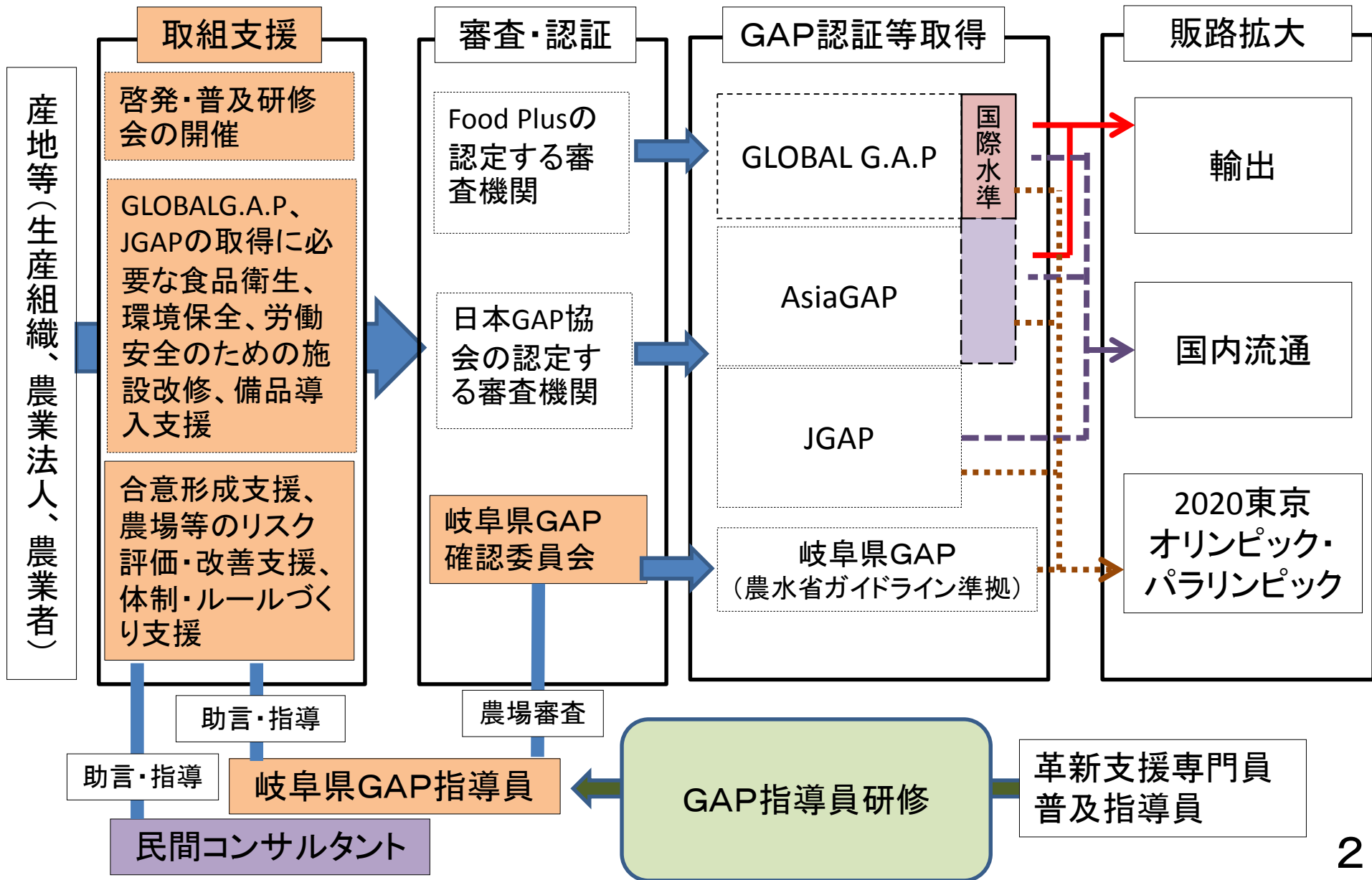
所 属	役 職
岐阜県農業協同組合中央会	会長
全国農業協同組合連合会岐阜県本部	運営委員会会長
岐阜県園芸特産振興会	会長
(一社)岐阜県農業会議	会長
(一社)岐阜県畜産協会	会長
岐阜県肉用牛協会	会長
飛騨ミート農業協同組合連合会	代表理事会長
岐阜県農業共済連合会	会長理事
岐阜県漁業協同組合連合会	代表理事会長
世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会	会長
岐阜県農林水産物輸出促進協議会	会長
岐阜県	農政部長



協議会設立(平成29年5月22日)

※協議会に以下の部会を設置
流通部会、農産部会、
畜産部会、水産部会

①総合的な支援策（GAPに取り組む意識啓発とGAP認証取得重点支援）



②岐阜県GAP確認制度

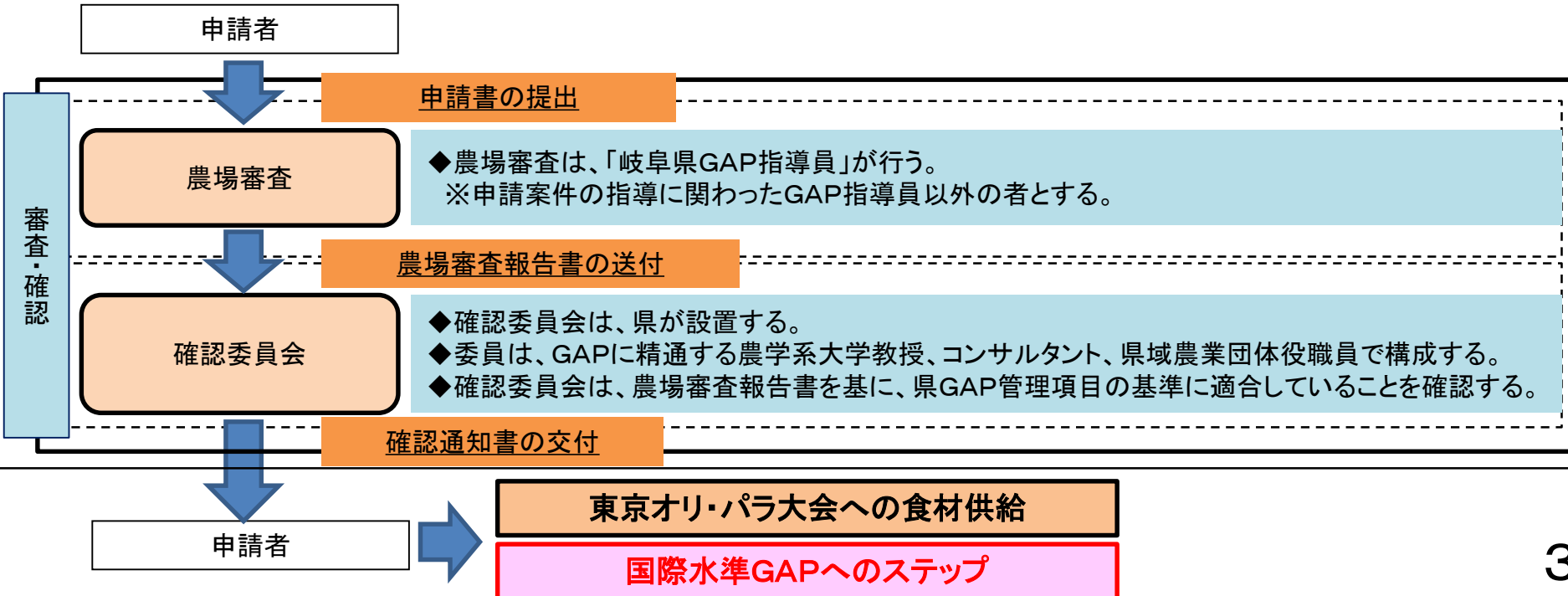
運用開始 平成29年11月1日

■岐阜県GAP

○農場管理基準、団体管理基準、施設管理基準 ※農林水産省GAPガイドラインに準拠

■確認制度

- 申請者要件 県内で農産物を生産する農業者、任意組織、農業法人、農業者等が組織する団体、農業教育機関
- 確認要件 申請者の取組みに該当する確認基準(農場管理、団体管理、施設管理)に全て適合すること
- 対象農産物 米、麦、野菜、果樹、茶、その他食用作物
- 確認の有効期限 確認通知書の交付日から平成32年12月末日まで
- 維持審査の実施 確認通知書の交付日から有効期限までの間、毎年、維持審査を受けること
- 申請受付 平成29年11月1日以降、随時受付。申請者は、農林事務所農業振興課に申請書類を提出
- 確認審査会 年4回実施



③ GAP指導員100人体制へ

◆岐阜県GAP指導員 GH評価員(※)の資格取得者に知事名で事務委嘱

- 農業者に対するGAP規範に沿った農場管理等の改善指導
- 岐阜県GAP確認制度の農場審査員としての農場審査

※GH評価員

一般社団法人日本生産者
GAP協会が開発したGAP
教育システムであるGH評
価制度における評価員



岐阜県GAP指導員任命式



<指導員養成目標>

◆平成31年度までに100名

<進捗状況>

◆29年度 40名

◆30年度 20名(H30.8時点)

④普及・指導体制整備

◇GAP推進チームの設置

県内10地域に県(農林事務所)、JA、市町村等で構成する推進チームを設置。

○普及対象者、GAP実践者のリストアップ

→ 普及対象者の拡大、普及対象者からGAP実践者への引上げと取組みへの支援活動実施

東京オリ・パラ大会に向けては

GAP取得重点推進対象

東京オリ・パラ大会開催時期に供給可能な主要な農産物の産地組織や農業法人等

GAP推進チーム

農林事務所

- ・岐阜県GAP指導員による指導
- ・補助事業による支援

JA

- ・営農指導員による産地指導
- ・生産出荷組合等のGAP実践

市町村

- ・地域におけるGAP啓発
- ・補助事業による支援

民間コンサルタントの活用 (GAPアドバイザー派遣制度)



II GAPの推進

⑤生産者向けセミナーの開催

○29年度実績

【主催】岐阜県

【共催】JA岐阜中央会、JA岐阜信連、JA全農岐阜県本部、岐阜県農業会議

【後援】農林中央金庫

【場所】岐阜・西濃、中濃、東濃、飛騨地域の4会場

【参加者】430名



⑥消費者の認知度向上の取組み

○『GAPを知ろう』農産物販売フェア H30.5.19 イオンモール各務原



○県庁食堂GAP野菜等メニューフェア H30.6.5~6.7



①清流の国ぎふおもてなし食材（重点食材11品目）



② 「清流の国ぎふ」おもてなし食材披露会

◆ 目的

大会飲食提供関係者等を対象に試食会を開催し、県産食材の利用を促進。30年度は商工労働部(県産品)及び林政部(県産材)と連携

◆ 時期、場所

第1弾 平成30年1月30日(火) ウェスティンホテル東京

第2弾 平成30年8月3日(金) ホテルニューオータニ

◆ 招待者

- ケータリング会社及びホテル・レストラン
- ホスタウン在京大使館
- 東京オリ・パラ大会関係機関 等

◆ 内容

- 重点11食材を使用した料理の試食
- 実務者レベルの食材セミナー(商談会)【第2弾】



「清流の国ぎふ」おもてなし食材

	
だいこん	こまつな
標高900～1000メートルの冷涼な気候と、豊富な水を浴びて育てられた「だいこん」は、みずみずしい食感と、辛みの少なさが特長です。	冬の野菜の代表格といわれる「小松菜」ですが、岐阜県ではハウス栽培により夏でも出荷が行われます。
生産量 約22,000t	生産量 約2,200t
出荷時期 7～10月	出荷時期 周年

おもてなし食材カタログ

③ 飛騨牛首都圏進出プロジェクト

- ◆ 目的 本県のトップブランド「飛騨牛」の首都圏での販路拡大とブランド力の向上
- ◆ 内容
 - ・コーディネーターを配置して首都圏で取扱料理店を開拓
 - ・新規開拓した料理店で「飛騨牛メニューフェア」を開催
 - 飛騨牛を中心に県産農畜水産物を使用した新作メニューの提供



飛騨牛メニューフェア
開催店舗とメニュー

④清流長良川の鮎フェア in Tokyo

- ◆目的 世界農業遺産に認定された「清流長良川の鮎」の首都圏での販路拡大とブランド力の向上
- ◆内容 首都圏の有名料理店・レストランでメニューフェアを開催
→ 天然鮎を中心に県産農畜水産物を使用した新作メニューの提供



郡上漁協の天然鮎



鮎フェアのメニュー



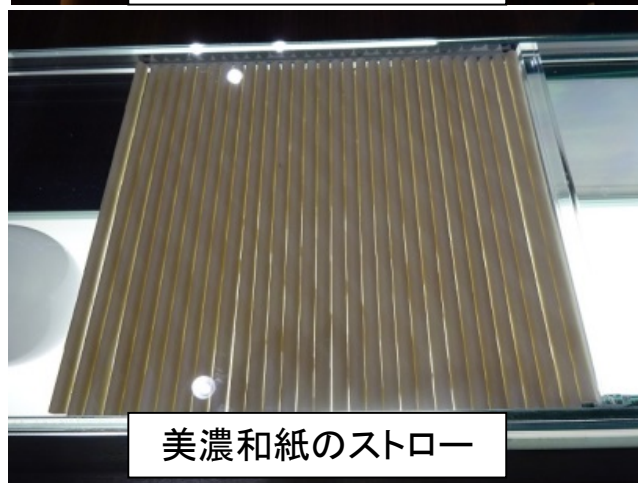
清流長良川の鮎フェア オープニング
(H30.8.9 都内日本料理店) 11

⑤八芳園 SDGS Business Events

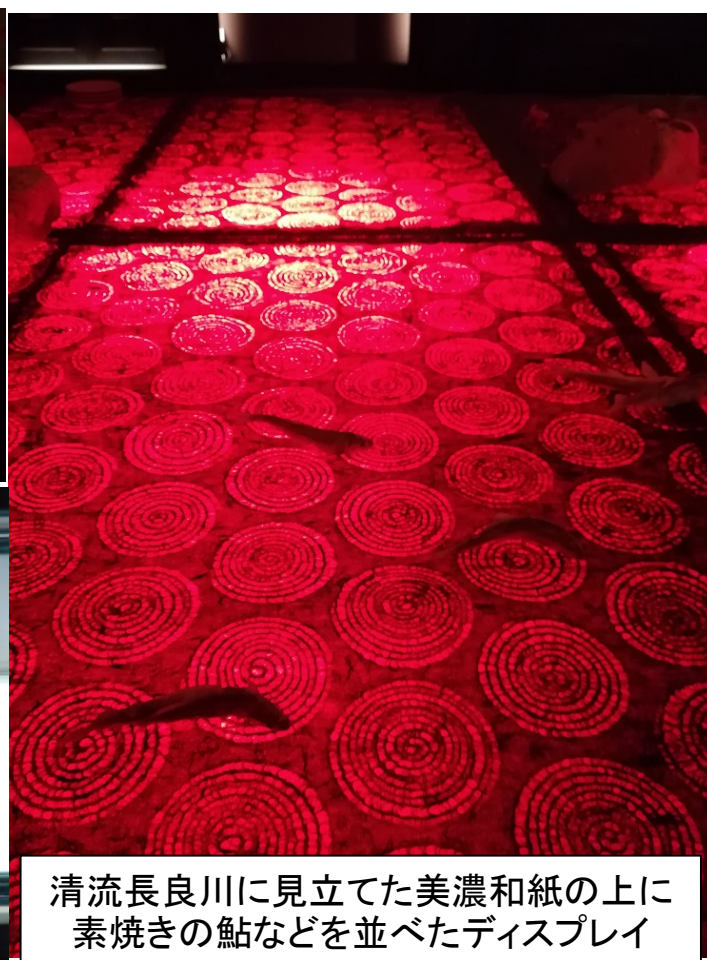
- ◆日時、場所：平成30年8月28日(火) 八芳園
- ◆主催：株式会社八芳園
- ◆内容：東京2020大会のホストタウンである岐阜県等のSDGsの取組みを展示



清流長良川の映像



美濃和紙のストロー



清流長良川に見立てた美濃和紙の上に素焼きの鮎などを並べたディスプレイ



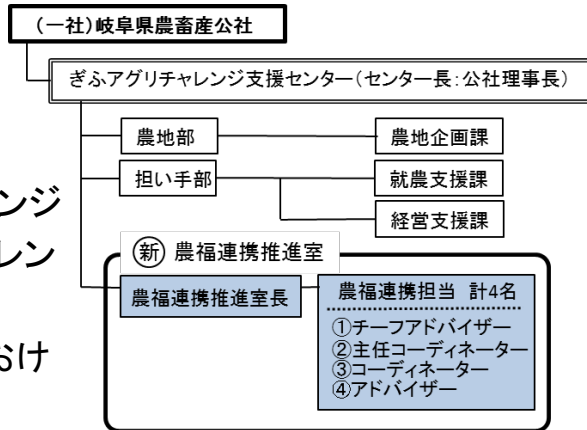
岐阜和傘(展示室入口)

⑥ 農福連携の推進

◎ 農福連携推進室の新設(平成30年4月)

農福連携支援組織の一本化を図るため、農業支援窓口である「ぎふアグリチャレンジ支援センター」に(福)岐阜県社会福祉協議会内の「岐阜県障がい者農業参入チャレンジセンター」の機能を統合しました。

農福連携のワンストップ総合窓口として、農業と福祉の両サイドから農業分野における障がい者の就労拡大などを支援します。



● 農福連携推進室 ●

【活動内容】

- 推進手法の確立
 - ・農福連携取組意向および優良事例調査
 - ・農作業の分析研究
 - ・農福連携取組ガイドブック作成
- 受入農家の支援
 - ・雇用体験賃金相当額の助成
 - ・施設改修等の整備費用の助成
- 啓発活動
 - ・農業者、福祉事業者向け研修会、相談会の開催
 - ・イベント等における農福連携ブースの出展

【推進目標】

- 農業者による障がい者の一般雇用の拡大
- 障がい者の農作業訓練の拡大
- 福祉事業所の農業参入の推進

障がい者

農業者

福祉事業所

◆GAPのレベルアップ

- 大会終了後は、国内においても国際水準GAPが標準仕様。県GAPから国際水準GAP認証取得へのステップアップ誘導
- 就農直後から国際水準GAPを実践できるよう、県就農支援センター、農業大学校及び農業高校においてカリキュラムを充実(認証を取得)

◆GAPの価値(安全・持続可能性)を共有するフードチェーンの構築

- GAPは農業者の取組み。食材の安全性や持続可能性についてはフードチェーン全体で確保することが重要
- GAPに関心ある流通(製造)業者、販売業者及び消費者等と連携した流通体系を構築。まずは県内の量販店及び消費者から

◆首都圏プロモーション活動による農畜水産物のブランド強化

- 大会後もブランドの維持向上のため、首都圏プロモーションを継続実施
- 「飛騨牛」「鮎」「富有柿」に続く、第4、5品目のプロモーション

◆岐阜県を訪れる外国人観光客への対応

- 外国人が利用する県内ホテル・レストランへの県産食材の安定供給
- 観光業、商工業(県産品)及び木材産業(県産材)と連携した取組み

ご清聴ありがとうございました